

学習評価について



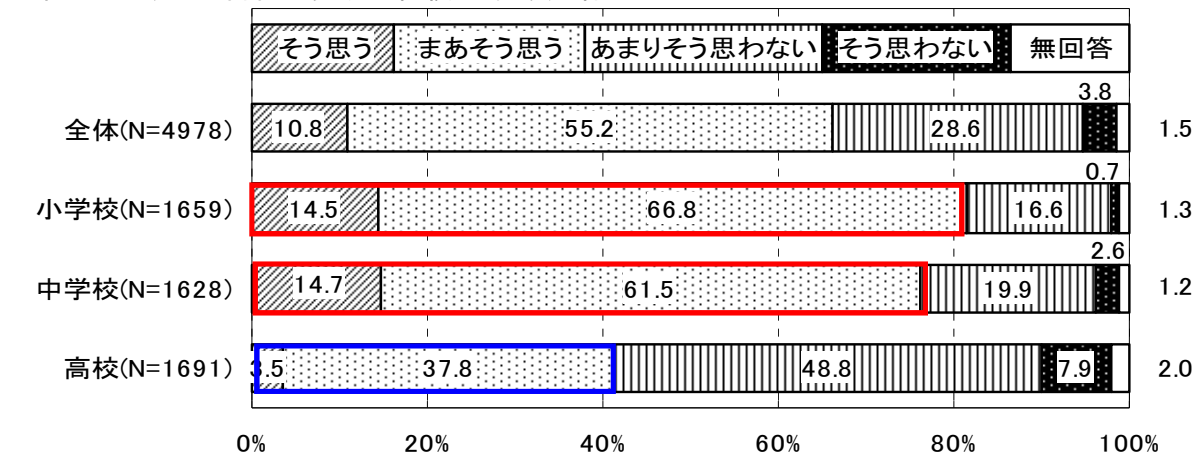
文部科学省

初等中等教育局教育課程課

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

学習評価について①

いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり、定着してきている



いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり、小中学校では、定着しているが、高等学校は状況が異なる

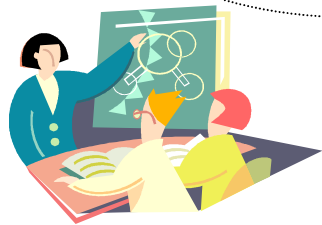
小学校教師: 約81%
 中学校教師: 約76%
 高等学校教師: 約41%



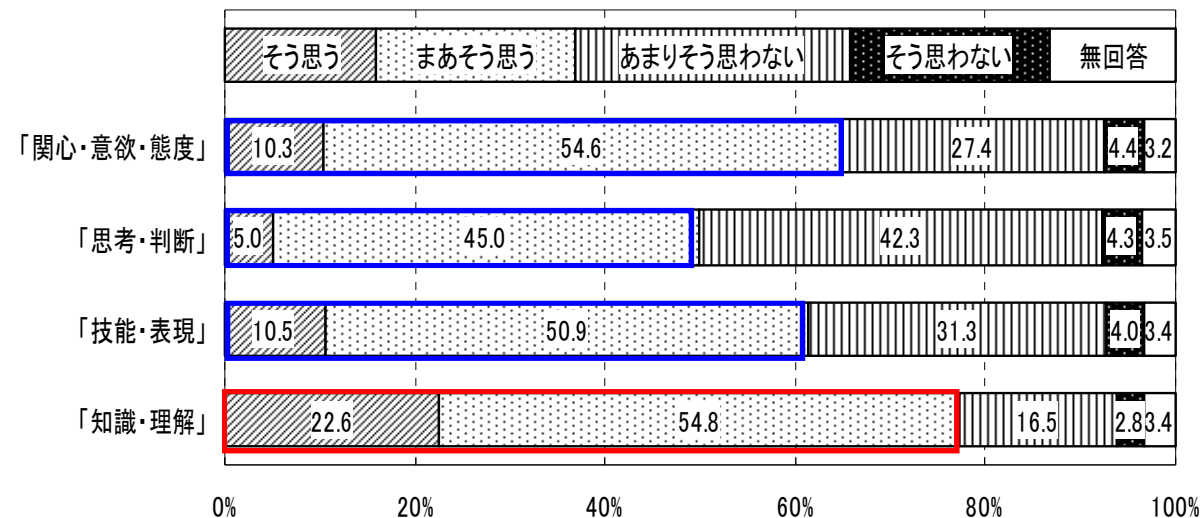
出典: 平成21年度文部科学省委託調査 学習指導と学習評価に対する意識調査

高等学校教師

関心・意欲・態度: 約65%
 思考・判断: 約50%
 技能・表現: 約61%
 知識・理解: 約77%

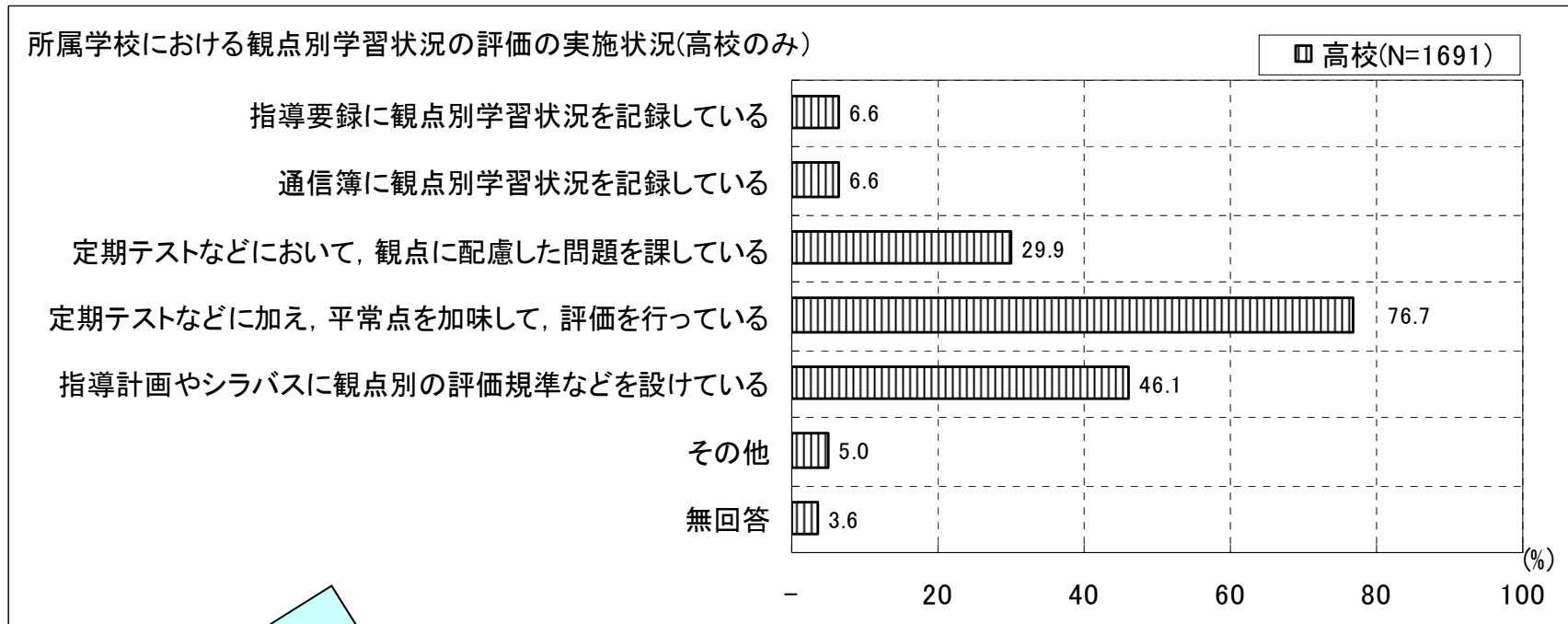


観点別学習状況の評価の実施状況【高校】評価の資料の分析、評価の決定を円滑に実施できている



出典: 平成21年度文部科学省委託調査 学習指導と学習評価に対する意識調査

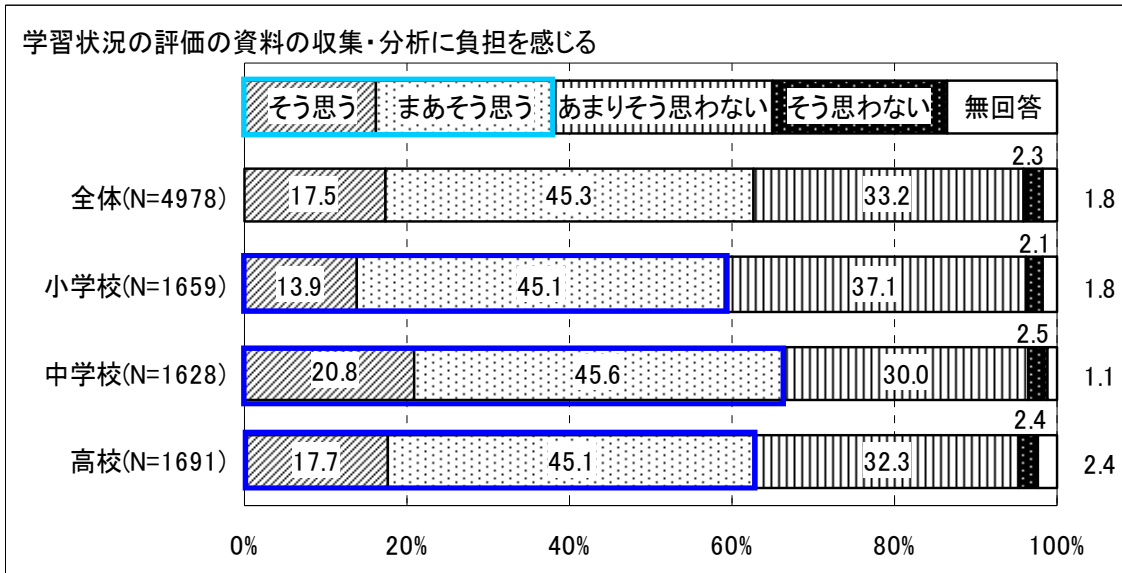
学習評価について②



高等学校では、小・中学校ほど
観点別学習状況の評価が定着
していない

出典：平成21年度文部科学省委託調査 学習指導と学習評価に対する意識調査

学習評価について③



出典：平成21年度文部科学省委託調査 学習指導と学習評価に対する意識調査

学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる



小学校教師：約59%
 中学校教師：約66%
 高等学校教師：約63%

学習評価について④

学習評価の現状

- 小・中学校を中心に、これまでの学習評価が教師に定着している
- 教師が負担を感じたり、授業改善に更につなげていく必要があると感じたりするという課題もある

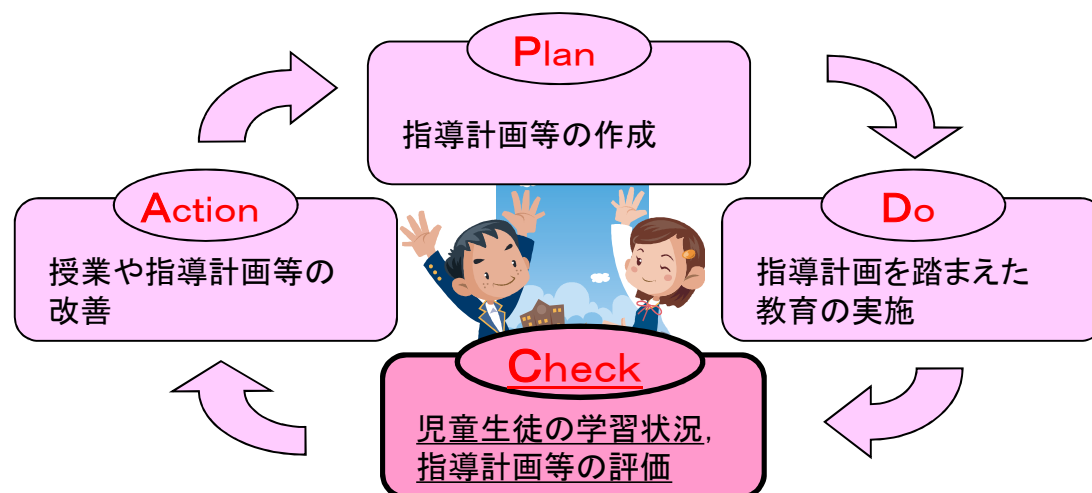
学習評価の意義・目的

学習評価：

- 児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有する
- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要

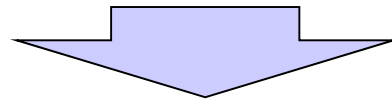
指導と評価の一体化

- 学習指導と学習評価のPDCAサイクルは、日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返されながら展開することが必要
- 児童生徒や保護者にとっても学習評価は重要
【児童生徒】自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促される契機
【保護者】家庭における学習を児童生徒に促す契機



学習評価について⑤

- 学習評価の意義やこれまでの学習評価の在り方が小・中学校を中心に定着
- 次代を担う児童生徒に「生きる力」を育む理念を引き継ぐ



今回の学習評価の改善に係る3つの基本的な考え方

これまでの学習評価の在り方を基本的に維持しつつ、その深化を図る

→ 各教科における観点別学習状況の評価と評定については、目標準拠評価として実施(きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着)

新しい学習指導要領における改善事項を反映

→ 新しい学習指導要領で示された学力の3つの要素と評価の観点とを整理 等

教育は、地域や学校、児童生徒の実態に応じて効果的に行われることが重要

→ 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

学習評価について⑥

新学習指導要領を踏まえた観点の設定

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める

新しい観点

「関心・意欲・態度」

「思考・判断・表現」

「技能」

「知識・理解」

※ 各教科の評価の観点は上に示した観点を基本としつつ教科の特性に応じて設定

学力の3つの要素との整理

基礎的・基本的な知識・技能



「技能」

及び

「知識・理解」

で評価

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等



「思考・判断・表現」

で評価

主体的に学習に取り組む態度



「関心・意欲・態度」

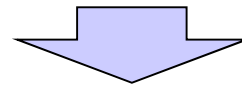
で評価

学習評価について⑦

「思考・判断・表現」

それぞれの教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価

- 新しい学習指導要領において、思考力・判断力・表現力等を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに、言語活動の充実が求められたことから、新たに設定
- 言語活動を中心とした表現に係る活動や児童生徒の作品等と一体的に行うことを明確化
- 自ら取り組む課題を多面的に考察，観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を見いだすなどの基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容等に即して思考・判断したことを，説明，論述，討論といった言語活動等を通じて評価



- 論述，発表や討論，観察・実験とレポートの作成といった新しい学習指導要領において充実が求められている学習活動を積極的に取り入れ，学習指導の目標に照らして実現状況を評価
- 思考・判断の結果だけではなく，その過程を含めて評価

学習評価について⑧

「技能」

各教科において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかどうかを評価

各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定

従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める

※ 教科によって違いはあるものの、基本的には、現在の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価

[算数・数学]

式やグラフに表すこと



[理科]

観察・実験の過程や結果を的確に記録し整理すること



「知識・理解」

各教科において習得すべき知識や重要な概念等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価

学習評価について⑨

「関心・意欲・態度」

各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を見
児童生徒が身に付けているかどうかを評価

- 学力の3つの要素の1つ
- 我が国の児童生徒の学習意欲に課題（全国学力・学習状況調査等により指摘）
- 他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係
 - 「関心・意欲・態度」について学習評価を行い、それを指導の充実に生かしていくこ
とは引き続き重要

授業や面談におけ
る発言や行動等

ワークシートやレ
ポートの作成、発表



※ 授業中の挙手や発言の回数と
いった表面的な状況のみに着目す
ることにならないよう留意

- 「関心・意欲・態度」の評価に伴う負担感等について指摘があったことを受け、評価方法や評価時期
等の工夫を推進

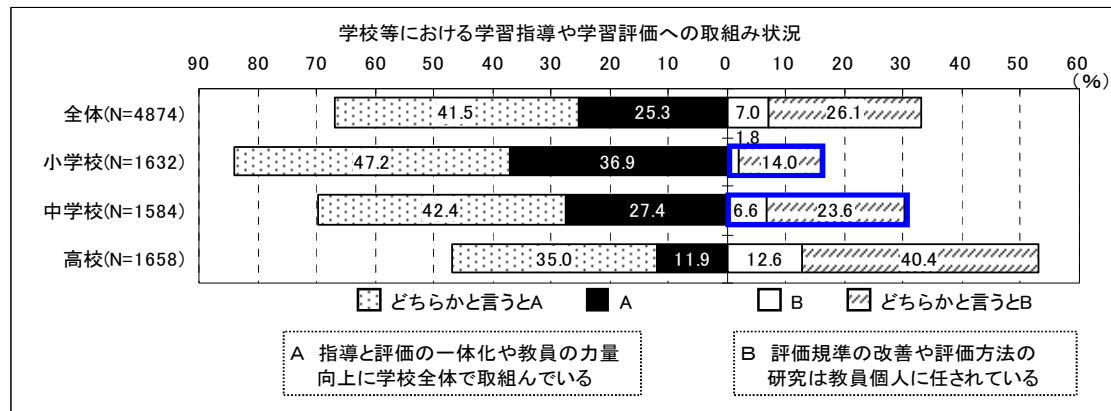
＜工夫の例＞

- ・ 教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむ
ね満足できる」状況等にあるかどうかを評価

効果的・効率的な学習評価①

学習評価を、学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付け、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施

学習評価の妥当性、信頼性等の向上を図るとともに教師の負担感を軽減するための、組織的・計画的な学習評価の推進



評価規準の改善や評価方法の研究は教員個人に任されている



小学校教師: 約16%
中学校教師: 約30%

学校

校長のリーダーシップの下での組織的・計画的な取組

- 新しい学習指導要領に対応した評価規準や評価方法の充実を図るとともに、学校内においてこれらの一層の共有を促進
- 評価結果について教師同士で検討
- 実践事例を着実に継承
- 授業研究等を通じ教師一人一人の力量を向上

保護者の理解の促進

- 評価に関する仕組みについて事前に説明
- 評価結果の説明を充実



効果的・効率的な学習評価②

設置者

- 地域や学校の実情を踏まえながら学習評価の基本的な事項を決定
- 学校に対する適切な指導・助言
- 教師の実践的な研修等の実施



国・都道府県教育委員会等

- 学習評価に関する研究を進め、学習評価に関する参考となる資料や具体的な事例の提示
・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(国立教育政策研究所が作成)
(小学校, 中学校, 高等学校対象)



<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>

各学校、各教科の教員が学習評価を進める際の参考として、評価規準作成に係るものは、新学習指導要領の各教科・科目等の目標、学年（分野）別の目標及び内容、評価の観点及びその趣旨等を踏まえ、評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例を示す。

また、評価方法等の工夫改善に係るものは、単元（題材）の評価に関する事例に沿って、評価規準の設定を含めた指導と評価の計画、具体的な評価方法、評価対象とした具体的な児童生徒の学習状況等について示す（各教科等ごとに作成）。